演題名番号：P-98

法医神経病理デジタルアーカイブの構築と運用 第一報

新井信隆 1)2)3) 植木信子 1)2) 八木朋子 1)2) 小松亜由美 3) 加世田莉奈 3) 上村公一 3) 鵜沼香奈 3)

1）一般社団法人 デジタル神経解剖病理フォーラム
2）株式会社 神経病理Kiasma&Consulting
3）国立大学法人 東京科学大学法医学分野

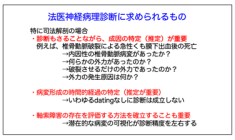
【はじめに】

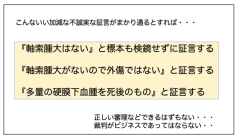
① 組織病理のデジタル画像を活用したアーカイブは研究のみならず人材育成や専門職の生涯学習の観点からも有益である。我々（一般社団法人デジタル神経解剖病理フォーラム）は神経系の正常解剖や病理像のデジタル情報を搭載した標本アーカイブを主にインターネットを介して発信することで、ユーザビリティの高い情報提供を可能とする社会を実現することを目指している。

② 今回はガラス標本をルーチンでバーチャルスライド化している法医学講座（東京科学大学）と共同して、法医神経病理デジタルアーカイブのコンソーシアムを今後構築してゆくキックオフの取り組みを紹介する。技術支援は株式会社神経病理Kiasma&Consultingアカデミア部門のクリエイティブセンター（WEBアーキテクトラボ、メディカルデザインラボ）が担当した。

【背景と目的】

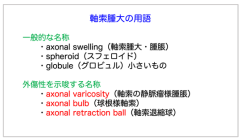
① 法医神経病理診断（特に司法解剖例）に求められることは、病院での死亡例の一般的病理解剖と異なる。
② 傷害致死裁判において、弁護側医師（非本学会員）が根拠のない主張をして審理を混乱させている事例がある。
③ 法医神経病理診断が中央診断化されてゆくことが望まれる。
④ そのために現場の担当者の間において、一定のコンセンサスが得られた共通認識を醸成してゆくことが必要である。
⑤ 教育コンテンツを共有する仕組みとして、法医神経病理デジタルアーカイブを作成し始めたところである。
⑥ 本学会などが積極的に社会貢献として関係組織に働きかけをしてゆくことが重要である。

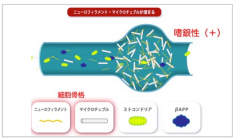


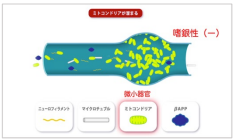


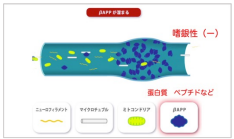
【方法と結果】

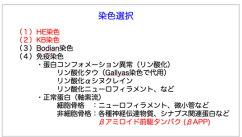
① 専用WEBサーバ（メモリ8G CPU:仮想6Core HDD:800GB）を用意し、サーバセキュリティ監視及びアップデート、通信暗号化設定及び状況監視を含むソフトウェア運用を開始した。
② 登録ユーザ専用ルームの運用を実現するためにコンテンツマネジメントシステムの一つであるConnect-CMSを導入した。
③ 専用WEBサーバには各ユーザー専用のルームエリアを作成しオンデマンドなコンテンツ編集を行い、それぞれの利便を最大限に追求する仕様を目指した。
④ 初期のトライアルは東京科学大学法医学分野と共同して行いオリジナルドメインを割り当てた。
⑤ 主なコンテンツとして、主に医学部生、および、法医学を学ぶ若手医師への教材を搭載した。
⑥ ブレインカッティングおよびサンプリングの推奨方法、代表的な組織病理所見の見方、軸索病変の見方、頭部外傷に関する教育資料などを搭載した（一部をランダムに下図に示す）。
⑦ これらもシステムの利便について内部レビューを行い、概ね良好な評価を得た。

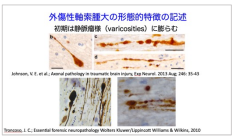


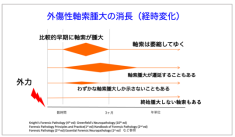


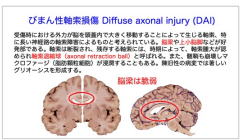


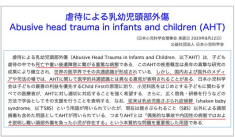


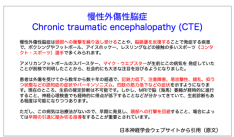


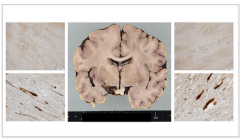


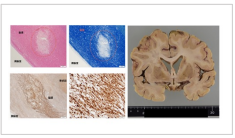


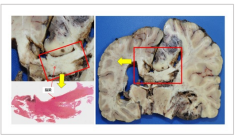


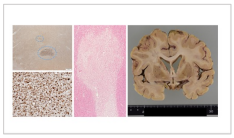


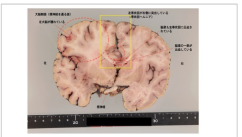


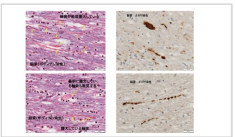












【まとめ】今回は東京科学大学との共同事業でスタートしたが、今度さらに発展させてゆくために多くの大学や学会を含む協力機関を募ってゆきたい。